

広島市三篠・観音地区下水道床上浸水対策計画

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>本市では、三篠・観音地区を含む、都市機能が集積した地区などの重点的に浸水対策を実施すべき区域を重点地区として独自に設定している。また、当該地区は古くから下水道整備を進めてきた合流地区であるため、市内の分流地区に比べて雨水整備水準が低く、平成21年から平成30年の過去10年間においても複数回の浸水被害が発生していることから、早急な浸水対策が急務である。なお、当該地区における内水シミュレーションの想定被害戸数は、床上浸水被害戸数が153戸、床下浸水被害戸数が1,798戸である。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画における対象降雨：62.5mm/h ・目標とする理由：平成28年9月17日に広島地方気象台で記録した過去10年間の最大降雨62.5mm/h ・ハード整備による整備水準の目標：53mm/h（10年確率） <p>②目標設定</p> <p>個人財産の保護の観点：重点地区において浸水深を概ね45cm未満とする。</p> <p>※重点地区：過去の浸水実績や避難所・公民館等の配置状況に加え、現時点における既往最大降雨を用いたシミュレーションによる床上浸水被害の想定区域（浸水深45cm以上）を基に設定している地区</p> <p>③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <p>i)ハード対策</p> <p>施設整備により53mm/hの降雨において浸水被害を防止することを目的とする。</p> <p>ii)ソフト対策及び自助</p> <p>施設整備で対象とする降雨量を上回る、過去10年間で最大の62.5mm/hの降雨において、下水道管理者が作成する内水ハザードマップなどの情報提供、地域住民等による止水板設置や土のう積みなど、それぞれが対策を実施することにより、被害を最小限にとどめるものである。</p>

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有 (平成 26 年 5 月改訂) ・ 策定予定 			
事業内容	公 助	ハード対策	下水道管理者	・別紙のとおり
			下水道管理者以外	・浸透ます ・透水性舗装
		ソフト対策	下水道管理者	・内水ハザードマップの作成・公表 ・HP や出前講座による情報の提供
			下水道管理者以外	・HP による降雨・水位等の災害時に有効な情報発信 ・洪水（外水）ハザードマップの公表
	自 助	ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ・止水板の設置・耐水化 ・土のう配布体制 ・浸透・貯留施設の設置（広島市雨水流出抑制に関する指導要綱） 	
		ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自主避難訓練 ・側溝清掃 ・建物の耐水化・地下室等の建築時の配慮 	

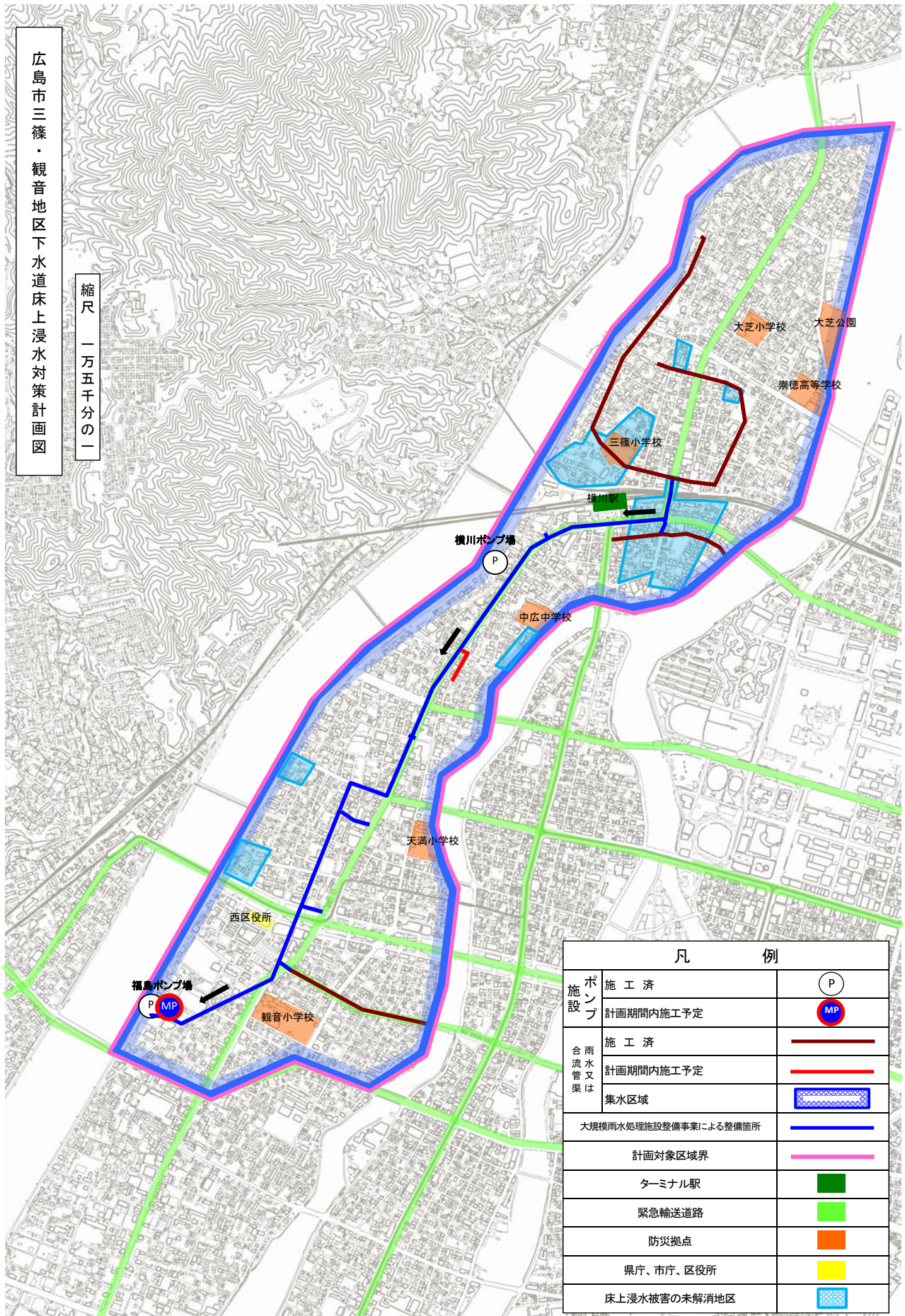
項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p>被害額：73,368 百万円が削減される。</p> <p>B/C：3.53</p> <p>経済的内部収益率：15.5%</p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップによる情報提供、出前講座による水害教育、土のう積み及び止水板設置により、過去 10 年間の最大降雨に対し、浸水深が 45cm 以上となる浸水被害の軽減を図る。</p>
放流先河川との調整状況	<p>福島ポンプ場の既設放流管きよを利用して排水する。なお、放流先となる太田川放水路は高潮護岸が整備済みである。</p>
その他	<p>特になし。</p>

(別紙)

全体計画					
名称	概算事業費 (億円)	管径 (ミリメートル)	延長 (メートル)	揚水量 (立法メートル/分)	工期
管きよ及びポンプ施設	16	○ 700, 立坑	130	—	R1~R5

広島市三篠・観音地区下水道床上浸水対策計画図

縮尺 一万五千分の一



凡 例		
ポンプ 施設	施工済	○P
	計画期間内施工予定	○MP
合 雨 流 水 管 又 は 渠	施工済	—
	計画期間内施工予定	—
	集水区域	■
大規模雨水処理施設整備事業による整備箇所		—
計画対象区域界		—
ターミナル駅		■
緊急輸送道路		—
防災拠点		■
県庁、市庁、区役所		■
床上浸水被害の未解消地区		■